

服部さん(銀彩群) 加藤さん(志野茶盃) 玉置さん(織部皿「五十鈴川」)

陶芸3作品
永年保存
東濃信金選定

東濃信用金庫の「美濃陶芸作品永年保存事業」の本年度選定作品の発表が9日、多治見市虎溪山町のとうしん学びの丘エールであり、服部竜也さん(47)＝同市美坂町＝の「銀彩群」、加藤尊也さん(65)＝同市高田町＝の「志野茶盃」、玉置保夫さん(84)＝同市市之倉町＝の「織部皿『五十鈴川』」が選ばれた。(小森孝美)

特別作品 故塚本快示氏の「青白磁輪花碗」



美濃陶芸作品永年保存事業で選定作品に選ばれた左から服部竜也さん、加藤尊也さん、玉置保夫さん＝多治見市虎溪山町ととうしん学びの丘エール

服部さんは土岐市駄知町に工房を構え、銀彩などを施したモダンな普段使いの器を作陶。推進委員会委員の金子賢治ととうしん美濃陶芸美術館長は「デザインの清潔さを感じさせる」と評した。服部さんは「金属など異素材を意識して制作している」と話した。

加藤さんの志野は、昨年の日本伝統工芸展で入選した作品。金子館長は「縦横の比率のバランスなど新しい器の感覚を持っている作家の1人」とした。

加藤さんは「あまり手を掛けず、一瞬でできた自然の形を大切にしている」と作陶への思いを語った。

玉置さんは、美濃陶芸の歴史の中で培われてきた技術を、自らの解釈で現代的に捉え直して焼き物に反映させている。委員の石崎泰之「県現代陶芸美術館長は「自身の世界をつくってきた集大成的な作品」と説明した。昨年の近作で、玉置さんは「84歳の力の限りを出し切って制作した」と話した。第1回に続き、2回目の選定となった。

特別永年保存作品には、人間国宝の故塚本快示氏(1912～90年)の「青白磁輪花碗」が選定された。同事業は40回目を迎え、今回を加えて選定作品は129点となった。18日から6月28日まで、同市虎溪山町のとうしん美濃陶芸美術館で展示される。